

## グローバル人材の育成に必要なことは何か

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 「これからはグローバル人材を育成していかなければいけない」と盛んに言われていますが、私もその通りだと思います。そこで今日は、経団連(日本経済団体連合会)という団体から出た「グローバル人材育成に向けた提言」という提言集を少し紹介させていただきながら、これからの社会で求められるグローバル人材とは何かということを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。
3. グローバル人材の育成ということが言われるようになったのは、日本国内の状況が急速な少子高齢化となり、人口も減っていますので、その必要性が出てきたからだと思います。それにプラスして、国際競争が激化しましたので、日本の人材力を強化して技術力やイノベーション力、つまり、いろいろなものを刷新する力を高めて、成長するアジアや新興国の市場の需要を取り込んでいく必要があるからだと思います。ちなみに、私の関心があるのはアフリカです。このようなことで、産業界としても政府としても大学生や高校生はもちろん、小学生の段階からできるだけ多くのグローバル人材を育成し、実際に海外で活躍できる人を増やしていきたいということだと思います。
4. 具体的に言いますと、事業活動がどんどん広がっていくと、グローバル化といって海外の人と交流するようになります。海外の人が日本に来たときに一緒に活動することもあります。海外にどんどん打って出て自分たちの仕事を広めたり、いろいろな交流を深めたりということもあります。つまり、事業活動のグローバル化に伴って、人事戦略として国籍に関わらず優秀な人材を採用したり、活用したりする動きが出てきます。産業界としては、社会人としての基礎的な能力に加えて、既成概念、すなわち今までの考え方にとらわれずにチャレンジ精神を持って、外国に行き、コミュニケーション能力を発揮してその国の文化や価値観の差異に興味を持ち、また、関心を持って活動する能力を求めているわけです。これが産業界が求めている素質・能力だと思います。
5. では、そのためにはどのようなことをしたらよいのか。キャリア教育といいますが、職業教育をもっともっと推進しなければいけない、その中でも一番大切なのは、文科系も大事ですが、理工系の教育をしなければいけないということです。日本では科学技術の進歩が国を立てる上での一番大きな使命だと言われていいますので、科学技術立国として日本をもっともっと育てようという理解が必要ではないかとよく言われています。それから、大学生にはもう少し海外に留学してもらいたい。できれば海外の大学生にも日本に来てもらいたい。大学生・高校生・中学生にもっともっとボランティア活動をしてもらい、大学生には長期間のボランティア活動に参加して海外へ行って活動して

もらいたいということです。

6. グローバル化については、各企業にも求められることがたくさんあります。一つ一つの会社には日本人の社員の方がたくさんいると思いますので、入社式が終わったあとの早い時期に、海外経験を積む機会を提供する。また、新卒者の採用や昇進、海外に行く条件の一つとして一定レベル以上の英語能力を求めてもいいのではないかとということです。そのため、実際に TOEIC などの試験への挑戦が非常に盛んに行われています。いろいろな企業や会社でよく言われるのが、TOEIC で 600 点以上取らなければいけない、700 点以上取らなければいけない、800 点以上取らなければいけないということです。TOEIC は 990 点満点ですので、少なくとも 600 点以上は取らなければいけないということで、皆さん一所懸命に TOEIC に挑戦していらっしゃいます。仕事をする前提として英語の運用能力を求める会社も多いですから、それに応えていかなければいけないわけです。
7. また、これからは、日本人のグローバル能力を育成するだけでなく、外国人の人材も積極的に採用して育成することが必要だと思います。私が一つ提案したいのは、栃木県には 1000 名ぐらいの外国人の方がいらっしゃいますので、外国人の留学生をもっともっと手厚くもてなしていただきたいということです。できれば栃木県内の会社や役所に就職していただき、そこで活躍できるようになればありがたいなと思います。御存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、アメリカは中国に多くの会社を持っています。しかし、アメリカにある会社で働いている中国の方はあまり多くないと言われています。その理由は、中国からアメリカにいらっしゃる留学生をアメリカの企業で採用し、その企業の一員として母国の中国にあるアメリカの企業に行って仕事をしてもらっているからです。このような形で、アメリカの企業は中国で非常に活躍しています。
8. これはとても参考になる話です。日本もこれからは日本への留学生をもっともっと増やして、そのうちの何分の 1 かの方に日本の企業に就職していただき、日本の企業の代表として母国に帰って仕事をしていただく。これも素晴らしいことだと思います。このように外国人の人材を採用して育成していくことも大事ではないかと思います。
9. それから、大学は英語による授業をもっと増やしたほうがいいのかもかもしれません。また、国際化に向けた取り組みとして、海外の優秀な学生に留学生としてもう少し多く来ていただければと思います。全体の 3 分の 1、できれば半分ぐらい、つまり 2 人に 1 人ぐらいは自分の大学に留学生がいるとよいと思います。そのぐらいのつもりで大学の経営をしていただくと国際化になり、よい交流ができると思います。日本語でもよいですが、できるだけ英語で交流する。学生同士は英語で交流し、先生も外国人が一人でもいたら英語で授業を行うぐらいの気概がなければ、これからの国際化は乗り切れないと思います。
10. 日本経団連(日本経済団体連合会)から「グローバル人材の育成に向けた提言」というものが出ましたので、それをもとにして今日はお話をさせていただきました。栃木県内で活躍する皆様に、自分自身はどのようにグローバル化したらよいのか、自分の所属する会社・団体はどのようにグローバル化したらよいのかを考える一つの手がかりにさせていただきたいと思います。